

JAM熟練技能継承事業ニュース

発行：2012年10月18日
JAM熟練技能継承推進室

群馬県の中小企業で事業展開

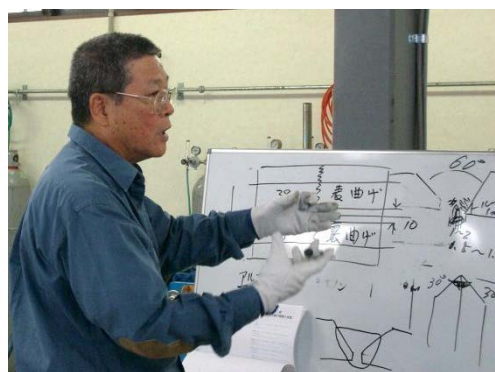
～溶接技能の高度熟練技能者が従業員を技能指導～

群馬県で初めてJAM熟練技能継承事業の展開をすることとなった株式会社T社は、沼田市にある配管機械のレンタル・販売や加工・施工を中心事業とした、資本金1000万円、従業員20名規模の企業。



<開講風景(左が佐藤高度熟練技能者)>

同社では、加工製品の精度・品質を高めるため、また技能資格保有による受注機会を増やす為に、溶接技能の習得を目指している。そして、その指導を支援してもらう方策についてインターネットで検索していたところ、JAMのホームページから「JAM熟練技能継承事業」を発見。JAM熟練技能継承推進室に電話で問い合わせ、技能指導の実現にこぎつけた。



<熱心に理論について講義する佐藤氏>

当初、溶接技能の指導者が見つからず、JAM北関東群馬県連を通じてJAM関連企業を紹介いただき、その企業に相談をしたが、最終的に群馬県職業能力開発協会から紹介を受けた高度熟練技能者の佐藤實氏に指導してもらうこととなった。



<溶接棒の「送り」の要領を実演指導>

10月8日に第1回目(全5回を予定)の技能指導を実施した。指導の内容はステンレス溶接(TN-F)の資格取得への指導で、受講したのは20～30代4名と50代1名。佐藤氏が「資格試験に合格することと併せて溶接技能がこの会社のコア(強み)となるよう指導したい」と抱負を述べた後、溶接の概論について40分ほど説明し、続いて実技講習を行い、姿勢や溶接トーチの持ち方、溶接棒の送り出し方などの基本を指導した。



<高度熟練技能者の「匠の技」を受講者が注視>